

平成 22 年度 春期 システム監査技術者試験 解答例

午後Ⅰ試験

問 1

出題趣旨	
システム開発プロジェクトの失敗の原因の一つとして、企画段階で、ビジネス要件の分析やシステム化目標の検討が不十分であることが挙げられる。システム監査人は、情報システムが企業の経営戦略やシステム戦略と整合しており、ビジネス要件を満たすものであるかどうかという観点で、企画段階の監査を実施することが重要である。 本問では、企画段階におけるシステム化効果の監査の重要性を理解し、システム監査人として適切な監査が実施できるかどうかを問う。	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	省力化効果だけでなく、経営判断にどのように役立つかといった定性的な効果も記載すべきだから	
設問 2	① ・経営者向けの月次レポートが提供されるまでの時間 ② ・標準的な分析パターンの各事業部・店舗での使用頻度	
設問 3	企画段階のドキュメントの承認根拠について、経営企画室長にインタビューして確認する。	
設問 4	既存の分析手法で実現できない場合のシステムの拡張性が考慮されていること	

問 2

出題趣旨	
受託業務では、重要な業務が継続して遂行でき、業務の結果として、信頼性のある情報を顧客である委託元に提供しなければならない。受託業務を支援する情報システムは、ほかの関連システムや手作業の業務と効果的に連携することで、情報の信頼性を高めることができる。 本問では、倉庫業務を例として、受託業務に係る情報システムが適切に実績を反映させた情報を提供し、受託した業務を継続する上で、監査人として必要なコントロールやシステムを評価する能力が備わっているかどうかを問う。	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	棚卸しが未実施の棚に倉庫在庫 DB 上も在庫残高のないことが、確認されていないから	
設問 2	月次在庫ファイルと倉庫在庫 DB の在庫残高とは、更新のタイミングが異なるから	
設問 3	ハンディ端末を利用せずに、入出庫業務をタイムリーに実施できる業務量であるか。	
設問 4	倉庫システムのデータがいつのデータまで本社在庫システムに更新されているか。	
設問 5	倉庫システムのデータを復旧するための手順が記載されていない可能性がある。	

問3

出題趣旨		
新しい技術の恩恵を受けるために導入したシステムにもかかわらず、新しい技術が円滑に活用されなかったり、業務効率が低下したりするケースがしばしば見られる。特に主要なビジネスプロセスを支援するシステムにおいては、導入効果の優劣が企業の業績に直接影響を及ぼす。そこで、導入後の効果測定によって、当初の導入目的が達成されているかどうかを検証することが、ますます重要になってきている。 本問では、リッチクライアント技術を採用した新システムの導入に伴って新たに発生するリスクの知識、リスクに対応したコントロールの識別能力、及び関連する監査手続についての知識を問う。		

設問	解答例・解答の要点		備考
設問1	プログラム配信記録と誤ったプログラムのデータ処理記録が突き合わされていることを確認する。		
設問2	既存データと同一のトランザクション番号及びタイムスタンプをもつデータの追加が排除されるか。		
設問3	営業職員番号と所属営業拠点番号が対応テーブル上で正しく登録されていない。		
設問4	①	・使用率の高い営業所と低い営業所でのモバイル端末の使い方の違い	
	②	・各営業支店が実施したモバイル端末の使用に関する教育方法の違い	

問4

出題趣旨		
ポイントサービスは、企業にとっては販売促進や顧客囲い込みの手段であり、消費者にとっては実質的な値引きに相当し、経済活動における重要性が増している。また、ポイント体系の複雑化や企業間のポイント交換などに伴い、ポイントサービスの情報システムへの依存度が高まっており、その信頼性の確保は、重要な課題となっている。 本問では、システム監査人として、ポイント管理システムの特性に応じて、リスク、コントロール目標、及びチェック内容を把握し、監査手続を実施する能力が備わっているかどうかを問う。		

設問	解答例・解答の要点		備考
設問1	a	3%未満は店長権限、3%以上は営業本部長権限での入力か。	
	b	同一月に1回だけ、1年間に3回までの設定か。	
設問2	(1)-①	ポイント率設定書とログファイルを照合し、基本ポイント率及び適用日の合致を確認する。	
	(1)-②	商品マスタファイルとポイント率ファイルを照合し、商品コードの整合を確認する。	
設問3	存在しない企業コードを入力し、該当するエラーメッセージの表示を確認する。		
設問4	受信したデータの企業コードが、提携先ファイルに存在するか。		